

## 各地で活躍する講師団

地道な学習の継続の中で

増田 一世

弊社には、文化事業部というセクションがある。主な仕事は体験発表会や各種研修会の企画、運営、やどかりの里での体験研修を希望される方の研修のコーディネート、そして、やどかりの里のメンバーが、自らの体験をもとに講演活動を行う際の、コーディネートや人材養成である。

やどかりの里のメンバーが、各地で体験を語り始めてからすでに10年以上が経つ。もともとは、やどかりの里の創設者であり、現会長の谷中輝雄氏が各地に講師として招かれる際に同行し、谷中氏とのジョイント講演を始めたのがきっかけだ。当時のメンバーは、谷中氏に講演のコツなどを伝授され、各地で活躍してきた。メンバーの講演は好評で、谷中氏に「みんなの話が主役だ、僕の存在が薄くなる」と言わしめたこともあった。

当初はやどかり研修センターで講師派遣をしていたが、1997年4月にやどかり情報館（精神障害者福祉工場）が開設され、2年目に研修センターの仕事がやどかり情報館から移ったため、やどかり出版の中に文化事業部を立ち上げ、メンバーの講師派遣も行うようになった。このときに私と一緒に文化事業部を立ち上げたのが、自らも統合失調症の体験を持つ香野英勇さんだ。香野さんと文化事業部の仕事づくりを行いつつ、私はたくさんのお話を教えられ、気づかされてきた。この仕事は職員の仕事、この仕事はメンバーの仕事、と考えていたのではないか。その壁を取り外すことが大切だと思ったのだ。

香野さんはさまざまなことを私に提案してきた。そのうちの1つが、講師として登録し

ている仲間との共同の学習の必要性だった。これからは、自分の体験を語るだけでは仕事として成り立っていかない。自分たちの講演活動を磨いていくのだという思いだった。そして、香野さんは講師として登録している仲間たちと月に1回の学習会を始めた。これは登録者だけではなく、オープンクラスとして希望する人は誰でも参加できるようにした。講師としての仕事に関心を持つ人、やどかり出版の職員、実習生、体験研修の参加者、さまざまな人が参加する。2部構成の学習会は、1部は香野さんの作ったアンケートに自分の意見や考えを記入し、それを1分か2分でスピーチし、参加者で話し合う時間とし、第2部は、15分ほどで自分の体験を語り、参加者が発表者に対して前向きなコメントをする。さまざまな視点で投げかけられる問いに、自分の考えを整理し、要領よく伝えていくことを学ぶ。この毎月の地道な取り組みが続いて5年になる。この学習会を経て、講師としてデビューする人も出てきた。人材養成の役割を果たす会でもある。

最近では、メンバーだけで講演に出かける機会が多くなってきた。依頼先から「職員がいっしょでなくて大丈夫ですか」と問われることもあるが、この11月だけでも何組もの人たちが各地に出向いていく。自分の体験を語ることで誰かが元気になってくれたらうれしい、というのが講師団の思いだ。そして、講師として活躍する仲間が増えていくのがうれしいと語るのが、香野さんだ。この力が、何かを揺り動かし、新しい動きになっていくはずだ。